



「知る」ということ

富山市立南部中学校 2年 大前 杏奈

相手のことを知る、理解しようとする。たったこれだけのことで、国際協力や世界平和につながる第一歩になるのではないのでしょうか。

知らないことは、残酷なことだと思います。相手の痛みや辛さ、大変さを想像できないからです。困っていたり苦しんでいても他人事のように考えて、無関心でいられるのです。

私は、父の転勤により、これまでに6都府県で過ごしてきました。小学校は3校、中学校は2校目です。同じ日本国内でも、慣習や傾向、表現方法等が違い、戸惑うこともありました。そんな時、いつも意識することは、「相手のことを知ろう」ということです。育ってきた環境、土地柄、風習、気候等が異なるのだから、今までの自分のやり方や考え方と違うのは当然なんだと……。そう考えることによって、「なるほど」「そうなんだ」と思えるようになり、徐々に戸惑いが減っていきました。

お互いに相手のことを知ろうとする気持ちがあると、相手の立場も想像でき、理解できるのです。仲間として協力でき、困っている時も助け合うようになります。

この考え方は、国際協力においてもあてはまると思います。世界中には、私が今までに経験したことのない環境で生活している人達がたくさんいます。厳しい自然条件、劣悪な教育施設や医療現場。世界の中には、そのような国々もあることを知り、その生活を想像し、協力できる人になりたい。転校を繰り返し、いろいろな学校でたくさんの友達と出会い、そして、戸惑い悩んだ時を乗り越えて、知る大切さを実感した今、強く思っていることです。

今後、できれば、世界各国に自らの足を運んで、実際に自分自身の目で見て体験して実状を知りたい。そうして得た知識や経験をもとに、国際平和に役立つ人、外交や教育、医療、技術等の分野で、日本だけでなく世界単位で協力できる人になりたいと思っています。

現在中学2年生である私が、今、できること……それは、知ること、相手の立場を想像し、思いやること。自分が将来世界平和のために何ができるかを意識しながら勉強することだと思います。そして、その知識を知識のみに終わらせずに、国際協力のために役立たせることが大切だと思います。

世界の実状を正確に知ること、その国の立場に立って理解しようとするところこそが、国際協力や世界平和につながる第一歩になると信じ、世界に目を、向けていきたいと思っています。